

令和 7 年度

学校自己評価表（計画）

学 校 運 営 計 画		
学 校 運 営 方 針	・豊かな人間性と知性・教養を兼ね備え、他者と協働しながら積極的に課題を克服していく気概のある生徒を育成し、活力ある地域社会の実現に貢献する。 ・自主・自律の精神と校訓「済美（人として誇り高く、美しく生きる）」の精神を涵養し、時代の変化に柔軟に対応できる聡明で創造力のある人材を育成する。	
三つの方針（スクール・ポリシー）		
育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	～卒業までにこのような資質・能力を身に付けた生徒を育みます～ 【普通科】自ら考え、探究心を持って挑戦する生徒 【家政科】生活を創ることに貢献し、探究心を持って挑戦する生徒 【共 通】自他を尊重するとともに、他者と協働できる生徒 礼儀正しく、何事にも粘り強く取り組む生徒	
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ 【普通科】 「知識及び技能を身に付け、しなやかな耐力が備わる活動」を計画します。 【家政科】 「専門的な知識及び技能を身に付け、創る力が備わる活動」を計画します。 【共 通】 「礼節と誠意をもって、仲間と支え合いながら着実に成長できる環境」を整えます。 「他者との協働の中で自身の考えを表現し、より良い答えに辿り着く思考力と協働性」を高めます。 「地域・文化・スポーツ等の魅力を発見・継承し、深化させるべく柔軟な発想で探究する態度」を育成します。	
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	～このような生徒を求めています～ 【普通科】課題を見つけ、探究的に学問を追究する意欲のある生徒 【家政科】課題を見つけ、人々の生活を科学的に追究する意欲のある生徒 【共 通】自身の考えを積極的に表現できる生徒 周囲との調和を保つことに優れた生徒	
昨年度の成果と課題	今年度の重点目標	具体的目標
成果 【学力向上・進路実現】 外部人材を活用した探究活動を推進し、1、2年生合同で最終発表会を実施。DXハイスクール事業の採択により、データとAIを活用した探究カリキュラムを開発・準備完了。早期の進路指導と個別対応により、国公立大学合格者110名（273名中）を達成。 【生徒指導・安心安全な学校づくり】 礼節・誠意を重んじ、いじめ防止、服装・携帯マナー、SNSトラブル予防を日常的に指導。外部機関やスクールカウンセラーとの連携を強化し、生徒支援体制を充実。 【部活動・行事・生活指導】 学校行事や部活動を通じた交流で自己肯定感を育成、規範意識の定着を図った。5つの部活動が全国大会出場、北信越大会等にも多数出場し、顕著な成果。	○ 基礎学力から思考力まで、進路実現に必要な確かな学力を養成する。 ○「総合的な探究の時間」等を通じて、知識技能・思考力・チャレンジ精神・表現力及び耐力を育成する。	・主体的対話的で深い学びを実現するための授業改善とICTの積極的活用 ・教科横断的な指導を取り入れた組織的な取組の実施 ・PDCAサイクルを意識した指導計画の作成 ・授業公開と生徒からの授業評価に基づく指導方法の改善 ・高大連携を含め、地域の人材を活用した探究ゼミ活動の計画・立案

【ICT活用・業務効率化】 校務支援システムやグループウェアの活用で連絡・引継ぎが円滑化。Googleフォームによるアンケートで教職員の負担軽減。生成AIやアプリの導入でペーパーレス化と事務処理効率化を推進。note等を活用した効果的な情報発信を実施。 課題 ○部活動や課外活動における事故発生時の緊急対応体制の徹底 ○分掌等に関する業務の効率化・ペーパーレス化の推進 ○教職員の超過勤務時間の縮減と働き方改革の実行 ○生徒の実態把握に基づくいじめの未然防止・早期発見に向けた体制と啓発活動の強化 ○「済美」を実践する校内美化と環境整備	○礼節と誠意を重んじ、自他を尊重するとともに、他者と協働する力を育成し、いじめの起こらない学校づくりを目指す。	・「いじめ防止対策推進法」、及び「新潟県立長岡大手高等学校いじめ防止基本方針実践のための行動計画」に則ったいじめ防止対策 ・学校生活に関するアンケート、いじめに関するアンケート等を活用した情報収集と報告・連絡の徹底 ・教育相談委員会や学年会、職員会議等における生徒情報の共有 ・外部連携を含めた教育相談の充実 ・職員研修をととした指導力の向上
	○家庭と連携して心身ともに健康な学校生活が送れるようサポートし、部活動や学校行事を通して豊かな人間性を育む。	・基本的生活習慣の確立 ・あいさつの励行 ・学校自己防止を目指し、授業・部活動・課外活動での安全指導 ・学習と部活動の両立 ・学校行事の充実 ・学年便り、note、HPを活用した情報発信
	○持続可能な学校体制を目標に、業務の効率化、ペーパーレス化等、ワークライフバランスの推進に取り組む。	・DX化による業務の効率化 ・授業や部活動、学校行事等の内容精選 ・アフターコロナの発想で部活動や学校行事の実施方法の再検討

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価		
○基礎学力から思考力まで、進路実現に必要な確かな学力を養成する。 ○「総合的な探究の時間」等を通じて、知識技能・思考力・チャレンジ精神・表現力及び耐力を育成する。	1 学年 ・予習・授業・復習という基本的な学習サイクルを確立させる。 ・総合的な探究の活動を通して視野を広げ、学びを深め、進路目標を早期に具体化させる。	学習時間や提出期限を厳守させ、学習習慣の確立を促す。			
		週末課題を調整し、適量の課題を出す。			
		朝学習の実施により1限の授業への円滑な移行を図る。			
		多種多様なデータを有効に扱うために、ICTをうまく活用できるように指導する。			
	2 学年 予習・授業・復習という学習サイクルを確立させる。 ・進路目標を早期に具体化させ、総合的な探究の時間を通して学びを広め深める。	朝学習を実施して集中力を高め、1限の授業への円滑な移行を図る。			
		授業内容を精選・工夫し、主体的に取り組む姿勢を引き出す。			
		週末課題を調整し、適量の課題を出す。			
		スタディサプリを活用し、個別最適な学びの環境を提供し、生徒の主体性と学習意欲を伸ばす。			
	3 学年 ・「授業第一主義」を貫き、効率的・効果的な学習を追求し続けることを通じて、生涯にわたる探究姿勢を確立させ、希望する進路実現につなげる。 ・探究学習を通じて身に付けた力を、教科の学習や将来自身が取り組もうとする	朝学習を実施して集中力を高め、1限の授業への円滑な移行を図る。			
		授業内容の精選をはかり、主体的・協働的な姿勢をさらに向上させる。			
		6月からの放課後補習や長期休業中の講習、特編授業などを通じて、基礎学力の定着と大学入試に対応した思考力・判断力・表現力の養成を図る。			
		進路年間計画に基づき、生徒自身に現状と今後の見通しを考えさせながら、受験計画を立てさせ、進路実現に向けた的確な出願につながるよう支援する。			

	社会課題の設定・実践につなげる。	多様な進路に対応するため、学習支援ICT教材を活用し、生徒自身がPDCAサイクルを回し続けるよう支援する。			
	教務部 ・学習指導と特別活動のバランスのとれた学校運営を図り、学習環境と学校生活の充実を図る。 ・図書館の活用を促す。	充実した年間行事計画を作成し、授業時数の確保を図るとともに、各行事等を検証することで次年度計画の改善に努める。 各種行事や式典を円滑に行い、学校への帰属意識を高める。 教科学習、学校行事、進路決定などの手助けとなるよう図書館資料を充実させ、利用の促進を図る。			
	進路指導部 ・多様な生徒の進路希望を実現するため、組織的・計画的な教育活動を総合的に展開する。 ・全職員体制で進路実現のための適切な支援指導を行う。 ・新しい学力観に基づく資質・能力の育成を組織的体制で行う。 ・適切な情報を保護者と共有しながら、生徒自身が主体的・自律的に進路実現に向かうよう家庭と連携して支援を行う。	進路指導計画に基づき、各進路行事の意義を再確認し、統一の方針で指導する。 補習や模擬試験、検討会などを充実させる。 多様な生徒の進路希望実現のため、各種案内を掲示または配信し、個に応じた細やかな指導に留意する。 模擬試験等の結果を分析して教員間で情報共有し、改善に向けた指導を行う。 「進路の手引」を発行する。 主体的な学びを生徒に促し、PDCAサイクルに基づく着実な基礎学力の定着を支援する。 学年集会や保護者対象の進路説明会などを通じて、適切な情報提供を行う。			
	探究推進委員会 ・自ら考え探究心を持って挑戦する生徒を育成する。	高大連携、外部人材活用を通して、求められる資質・能力の育成を促す。 学年や進路指導部と連携して、持続的で組織的な探究活動を企画立案する。			
○礼節と誠意を重んじ、自他を尊重するとともに、他者と協働する力を育成し、いじめの起こらない学校づくりを目指す。	生徒部 ・長岡大手高校生としての自覚を持たせ、高い規範意識を育成する。 ・適切な学習環境作りに努める。	服装および頭髪については自分で責任を負うように恒常的に指導する（服装自由化宣言の意味を理解させる）。 携帯電話のマナーやインターネット、SNS等のトラブル防止の意識啓発を行う。 大清掃・除草等を計画的に実施する。 美化委員会の日常的活動を通して、全校生徒に自主的な行動を促す。			
		人権教育・同和教育推進委員会 ・人権意識とそれを支える豊かな心を育むとともに、人権啓発に関して保護者と連携を図る。	人権教育・同和教育講演会と「生きるV」を活用した学習会を実施し、生徒職員の人権意識啓発を図る。 学習会後に、職員アンケートを実施する。 講演会を保護者に案内し、連携強化を図る。		
		教育相談委員会 ・生徒の実態把握に努め、支援を充実させる。 ・いじめの未然防止・早期発見に努める。	QUテストを実施し、困難を抱える生徒を把握して、生徒指導に役立てる。 SOSやいじめに関する職員研修会を開催する。 学年やSCと連携し生徒を支援する。		
	1 学年 ・心身ともに健全な生徒の育成を図り、基本的な生活習慣を確立させる。	部活動や学校行事、課外活動への参加を通して他者との交流を促す。 学習時間や起床・就寝時間などを確保する意識を高める指導を行い、生活習慣の確立を促す。 学年だよりやnoteを通して情報発信を図る。 アセスメントテストや模擬試験などの結果を活用しながら、将来の進路目標を意識させる。			
○家庭と連携して心身ともに健康な学校生活が送れるようサポートし、部活動や学					

校行事を通して豊かな人間性を育む。		面談を通して生徒の進路意識を高める。			
	2 学年 ・ 基本的な生活習慣を確立させ、心身ともに健全な生徒の育成を図る。	部活動や学校行事、課外活動への参加を通して他者との交流を促し、個々の役割を果たすことで自己肯定感を高める。			
		頭髮・服装の指導などを通して規範意識を高め、学習に集中する雰囲気をつくる。			
		学年だよりやnoteを通して情報発信を図る。			
		面談を通して生徒の進路意識を高める。			
		模擬試験の結果を効果的に利用し、卒業後の進路についての目標を立てさせる。			
	3 学年 ・ 心身ともに健全な生徒の育成を図り、最上級生として下級生の模範となる学校生活を送らせる。	頭髮・服装指導などを通して規範意識を高め、学習に集中する雰囲気をつくる。			
		体育祭などの学校行事において、模範的行動をもって下級生を指導・統率し、また主体的に集団に寄与することなどを通じて、将来の社会貢献の基盤となる資質をさらに向上させる。			
	教務部 ・ 生徒や保護者、地域への情報発信を行う。 ・ 保護者、同窓会、後援会等との連携の中で、「生徒を育てる」という共通認識を深める。 ・ 日常的教育活動等を保護者と地域に向け積極的に情報発信する。	各種奨学金制度の案内を行い学習環境の充実に努める。			
		オープンスクールや授業公開を実施する。			
		P T A活動の広報及び東山大遠足給水活動への保護者の参加を依頼し、協働して行事運営にあたる。			
		保護者の大学見学会を企画し意識喚起に資する。			
		PTA活動における業務改善や資料のペーパーレス化を図る。			
		学校HPやnote、保護者用メールシステムを通じて情報発信を行うとともに、各学年、教科でGoogleClassroomやロイロノートを活用し、I C T教育の充実に努めるよう促す。			
	生徒部 (生徒指導、保健環境) ・ 交通安全意識を高める。 ・ 家庭や地域と連携した指導を実施する。 ・ 自主的に心身の健康管理ができる生徒を育てる。	自転車の運転マナーを徹底させる。自転車には必ずステッカーをつけさせる。			
		駐輪場の整理整頓を行う。			
		生徒の問題行動に対して学年、クラス、家庭と連携して再発予防に全力をあげる。			
		地域、警察、他校と定期的に情報交換を行う。			
		健康調査等を実施し、健康状態や管理状況を把握する。			
		生徒自身が健康課題を自己評価できるよう、健康チェックを実施する。			
	生徒部（生徒会） ・ 学校行事やHR活動への生徒の積極的参加と自主的運営を図る。 ・ 部活動を通して、生徒の健全な心身を育成する。	生徒会執行部と教員の連絡を密にし、生徒会活動の活性化を促す。生徒会やHR活動を可能な限り自主的に運営させる。			
		体育祭、済美祭及びスポーツ大会の充実に努める。			
		部活動説明会、壮行式、表彰式などにより、部活動への加入を促す。			
		各部活動ごとに目標を立て活発に活動させる。			
○ 持続可能な学校体制を目標に、業務の効率化、ペーパーレス化等、ワークライフバランスの推進に取り組む。	教務部 ・ 職場全体の業務の効率化を図る。 ・ PTAと連携して持続可能な学校体制の実現に向けて取り組む。 ・ 情報化環境の整備、活用とペーパーレス化を推進する。	校務支援システムとグループウェアの活用を促す。			
		FST、グループウェアキャビネット等の整理を行い、連絡や引継ぎを円滑にする。			
		役員選出やPTA活動が円滑に進むよう他部署との連携を強化する。			
		Googleフォームを活用して保護者アンケートを行い、保護者や職員の負担を軽減する。			
		タブレット端末や電子黒板などのICT機器の活用及びオンライン教材や学習支援ツール活用を促進する。			
		ペーパーレス化を検討・導入し事務処理の効率化を図る。			
成果			総合評価		